

福島第一原発で 安倍首相の語ったこと

4月14日、安倍首相が首相就任後3度目の福島第一原発視察をおこないました。
どんな挨拶をしたのか？は官邸のホームページで公開されている動画で見ることができますが、
文字で全文を読むことはできないので文字起こしてみました。ついでなので過去3回分全部です。

2012年12月29日

(参考資料①1:45頃)



皆さま、お疲れ様でございます。総理大臣の安倍晋三でございます。
先般、自由民主党の総裁としてお邪魔させていただきました。
今回は総理大臣としてお邪魔をさせていただきました。
皆さま、この年末にも関わらず、昼夜を分かたず、廃炉に向けて全身全霊を
傾けていただいております。おそらく、普通であれば、今、ご家族の皆さん
と団欒の時を迎えているんだろう、と思いますが、

こうした皆さまの貢献があってこそ、廃炉に向けて着々と作業が進んでいるわけでありまして。
国民を代表して、皆さまに心から感謝を申し上げたいと思います。本当にありがとうございます。
発災以来、大変なご苦労があったことと思います。前の所長の吉田所長が書かれた本を拝見を
いたしました。発災直後はまさに本当に命がけであったわけでありまして、
皆さまの御貢献がなければ、コントロールできたかどうかは分からなかったわけでありまして、
どこかで誰かが命をかけなければ、家族も地域も、そして国も守ることができないんだ、
ということをおっしゃるは身をもって示してくれたと思います。皆さんのこの勇気ある行動こそ、
日本のホープであり、未来なんだろうと、こう、思います。
しかし、挑戦はさらに続くわけでありまして、これだけ大規模な廃炉に向けての作業というのは
人類史上初めての挑戦であります。日本の科学力の粋を集め、技術力を結集をし、
そして皆さんの強靱な精神によってこの挑戦、成功裡に収めなければならないわけでありまして。
この廃炉に向けた、皆さんの挑戦が成功してはじめて、福島の復興、そして日本の復興に
つながっていくわけでありまして。我々、政府としても
国として全面的にバックアップをしていくことをお誓いを申し上げる次第でございます。
今回は復興担当大臣、地元の根本匠さんに大臣を任命をしたところでございます。
様々な、この地域、あるいは福島県の課題を知っている、精通している、
根本さんに大臣をお願いいたしました。根本さんを中心に復興を進めていくわけでありまして、
私も総理大臣として全面的に皆さまとともに戦っていくことをお誓いを申し上げまして、
改めて、皆さまに深甚たる感謝を申し上げまして、お礼の言葉とさせていただきます。
どうぞこれからもよろしくお祈りいたします。一緒に頑張ってください。

2013年9月19日

(参考資料②1:50頃)



皆様連日お疲れさまでございます。安倍晋三です。
発災以来、事故の収束、そして対策、対応、そしてまた廃炉に向けて
様々な対応、そして汚染水対策等、日々起こる様々な事態に対応するために、
この厳しい状況の中において、全力を尽くしておられる事に対しまして、
まず感謝を申し上げたいと思います。

もちろん日々、国民の皆様からも厳しいご指摘、お叱りもあります。そういった厳しいご指摘に
対して対応するために全力を尽くしていただきたいと思っておりますし、そして同時に裏を返せば、
皆様への〇〇であろうと、このように思うところでございます。
しっかりとこの国民の皆様方の声に答えていただきたいと思っております。
私は先般、ブエノスアイレスにおきまして、ある1人のサッカー少年の話をしていただきました。
彼は外国のサッカーの選手からもらったボールを大切に私に見せたわけでありまして。
このボールは彼にとってただのボールではなくて、正に彼にとっては希望だと思っております。
今日も恐らくその少年はこの福島青空のもとサッカーボールを元気に蹴っているのだと思っております。
そしてこの少年は復興と、さらには未来を見つめています。
彼らの安全に私は総理大臣として責任を持っています。
そして私は皆様と共にこの責任をしっかりと果たして参りたいと、
このように思います。
(次ページに続く)

〇〇は
聞き取れなかった部分

(前ページの続き)

福島をよみがえらせていくためにも〇〇にはよろしくお願いします。
私も先頭に立ってまいります。共にがんばってまいりましょう。
よろしくお願いします。ありがとうございました。

2019年4月14日

(参考資料③0:50:40)

感謝状授与式での挨拶



皆さまこんにちは、内閣総理大臣の安倍晋三でございます。
総理就任以来、東京電力福島第一原発に訪れるのは、今回で3回目
となります。前回訪れた際には、Jヴィレッジで全面マスク、防護服に
着替えた上で、構内の状況を視察したことを今でも覚えております。

廃炉の前線基地であった、そのJヴィレッジも、いよいよ本日全面再開。
先ほど行ってまいりましたが、5年前、作業員の車で埋め尽くされていたグラウンドは
今や美しい緑の芝生に覆われ、子供達が元気いっぱいの笑顔で走り回っていました。
ここ東京電力福島第一原発でも、私は本日、このスーツ姿のまま、マスク等の装備を
つけることなく構内を視察することができました。凍土壁などの対策によって、
汚染水の発生量は減り、3号機ではプールからの燃料取り出しがいよいよ始まります。
これらは全て、被ばく管理が求められる厳しい現場にあっても、1日も早い廃炉に向け
献身的に作業にあたってきた皆さんのおかげであります。

この後、感謝状をお渡ししますが、この機会に改めて廃炉に携わる全ての方々に対し
総理大臣として心からの感謝を申し上げます。

廃炉までの道のりはまだ長く、険しいものでありますが、皆さんの力によって一步一步確実に
前進させていただき、福島の、そして全国の皆さんの期待に応えてほしいと願っています。
国も前面に立って取り組んでまいります。福島の復興を成し遂げるその日まで、
皆さん、共に頑張っていきましょう。本日はありがとうございました。

工事チームメンバーの話を車座で聞いた後

(参考資料③1:22:20)

皆さまありがとうございました。
皆さまのお話をうかがっていてですね、なんとか故郷を再生させたい、
子供たちの世代に引き渡していきたい、という気持ち、
そしてこの困難な作業にチャレンジしていこうという意欲、そうしたものを
感じ取ることができました。廃炉作業というのは本当に厳しく、困難な、
そして長いチャレンジングな作業でございますが、まさにそうした気持ちで
皆さんに取り組んでいただき、前回、5年前に視察をした時にはですね、
私も、防護服に身を固めてですね、視察をさせていただいた、同じ場所をですね、
今回、スーツ姿で視察をすることができました。そういう意味におきまして、
皆様方の本当に献身的な熱心な作業によってですね、ここまで来ることができたと、
こう思っておりますが、ここからまさに正念場を迎えることにもなります。
3号機の使用済み燃料の取り出しの準備にいよいよかかってくるということでございます。
しかしこの、世界が、今、この作業を注目していると言ってもいいんだろうと、思います。
皆さんからお話をうかがっていたら、線量をあげないように、被ばくをあげないようにするために
様々な対策、緻密な工程を自ら段取りを作りながら、自分自身でも管理をしていくという
この姿勢というのはですね、ある意味、世界からも賞賛される、
いわば日本人の勤勉さの一つでもないかなと、このように思いながら、
うかがっていたところでございます。これからは、様々な課題もあるし、
長く厳しい作業が続いていくわけですが、どうか今後とも、皆様方のご協力、ご尽力、
お願いをしたいと思っておりますし、日本としてもですね、廃炉、汚染水対策、
国が前面に立って全力を尽くしていきたい、というように思います。
一緒に皆さん頑張ってください。ありがとうございました。



最後に一言

動画で確認できる挨拶の全文です。中でも私が1番気になったのは、2012年12月の「命をかけな
ければ・・・国を守ることができない」という発言。これ、首相が言ったらダメでしょう。本来な
らば、国策によってこんな目に合わせてすみません、って謝る場面だと思います。
さてさて、安倍さんに限った話ではないのですが、視察する意味って何なんでしょう。か。
私は「うまくいってる所」の視察なんて意味ないと思います。今、現場で何が足りないのか？その
問題に対して、視察している人（今回の場合は安倍首相）の立場で何ができるのか？それを現地に
行って肌で感じ、実際に行動する。
それが現地視察の意味なのでは？

参考資料(全て 政府インターネットテレビHP)

①福島県下訪問-平成24年12月29日 <https://nettv.gov-online.go.jp/prg/prg7421.html>

②東京電力福島第一原子力発電所視察-平成25年9月19日 <https://nettv.gov-online.go.jp/prg/prg8503.html>

③福島県訪問-平成31年4月14日 <https://nettv.gov-online.go.jp/prg/prg18815.html>